

生産は続伸し、住宅着工は貸家の増加で急伸 産業集積の影響が随所に表れる

10月の鉱工業生産指数（季節調整済）は、3カ月連続の前年同月比プラスとなった。化学工業（前年同月比+112.7%）や汎用・生産用機械工業（同+8.0%）など7業種が上昇した。

11月の大型小売店販売（百貨店・スーパー）は、既存店（店舗調整後ベース）で同+4.1%と2カ月ぶりのプラス、専門量販店別では、ドラッグストアが同+2.0%と30カ月連続のプラスとなった。

新設住宅着工戸数は、2カ月ぶりの前年同月比プラスとなった。利用関係別では、特に貸家が同+101.6%と大きく増加し、着工戸数を押し上げた。

また、11月の熊本空港旅客者数が38カ月連続の前年同月比プラスとなった一方で、10月の延べ宿泊者数（速報値）は、6カ月連続の同マイナスとなっており、半導体関連企業の工事関係者による宿泊需要の落ち着きが一因として考えられる。

各指数の矢印については
現状の景況感をあらわす。



上向き



横ばい



下向き

鉱工業生産指数



前年同月比3カ月連続プラス(10月)

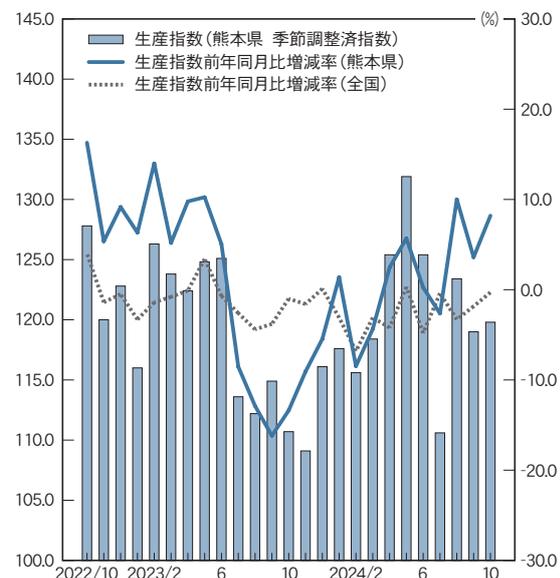
10月の鉱工業生産指数（季節調整済）は、速報値で前年同月比+8.2%の119.8と3カ月連続でプラスとなった。

生産指数（季節調整済）を業種別にみると、化学工業（前年同月比+112.7%）や汎用・生産用機械工業（同+8.0%）など7業種が上昇した。一方で、繊維工業（同▲35.5%）や木材・木製品工業（同▲28.9%）など9業種が低下した。

業種別寄与度を見ると、電気機械工業が+1.85ポイント、輸送機械工業が+0.48ポイント、パルプ・紙・紙加工品工業が+0.38ポイントとなり、全体の生産指数を押し上げた。

なお、電子部品・デバイス工業の分類に含まれる集積回路（原指数）は211.2（同+9.4%）と上昇した。

鉱工業生産指数前年同月比（2020年=100 季節調整済）



※最新月は速報値
資料：熊本県統計調査課、経済産業省

住宅着工

着工戸数は2カ月ぶり前年比プラス(11月)

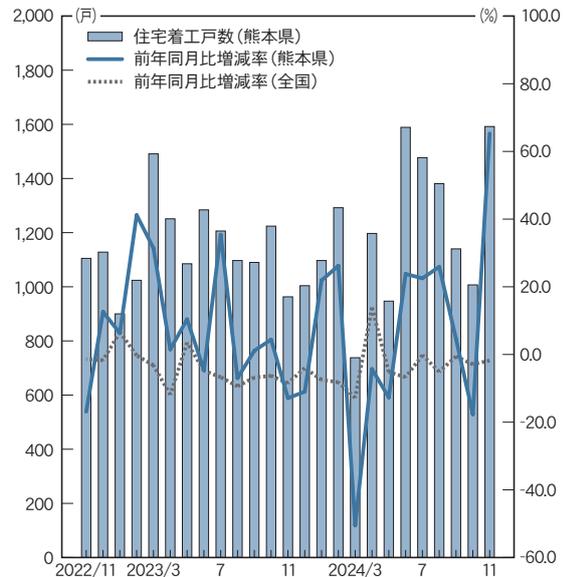
11月の新設住宅着工戸数は、前年同月比+65.3%の1,592戸となり、2カ月ぶりのプラスとなった。

利用関係別にみると、持家が402戸（前年同月比+31.8%）、貸家は1,012戸（同+101.6%）、分譲は166戸（同+15.3%）となっている。

持家は今年7月に18カ月ぶりに前年同月を上回り、5カ月連続で前年同月比プラスとなった。また、貸家は2カ月ぶりに前年同月比プラスとなった。貸家の着工戸数が1,000戸を上回ったのは、2006年4月以来およそ19年ぶり。分譲は、台湾を中心に外国人の投資家が建売住宅を購入するケースが多くみられている。

なお、全国の11月の新設住宅着工戸数は、65,037戸（同▲1.8%）となっており、7カ月連続マイナスとなった。

新設住宅着工戸数前年同月比



資料：国土交通省

公共工事

請負金額は前年比プラス(12月)

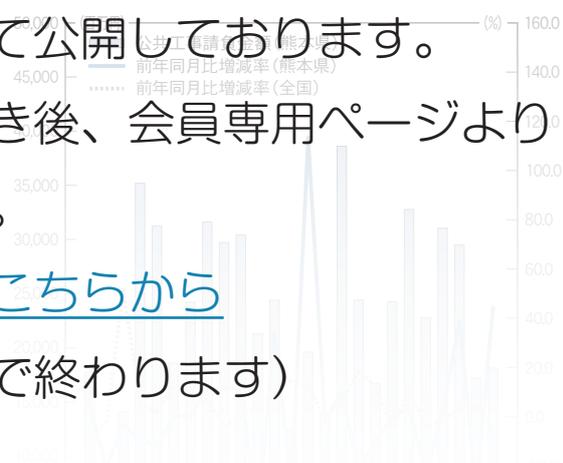
12月の公共工事件数は前年同月比▲11.4%の351件となり、請負金額は同+44.4%の181

億30百数十万円（前年同月比+683.4%）、県は53億61

百万円（同▲21.1%）、市町村（除熊本市）は47億98百万円（同+1.5%）となつてい

地区別では県内11地区のうち、菊池地区、芦北地区などの7地区が前年比プラス、宇城地区、上益城地区などの4地区がマイナスとなった。

公共工事請負金額前年同月比



以降は会員専用ページにて公開しております。

ご覧頂くには、入会手続き後、会員専用ページよりアクセスをお願いします。

[ご入会はこちらから](#)

(入力は数分で終わります)

[会員の方ははこちらから](#)